

病院のお仕事発見

「緩和ケア認定看護師」編



患者さんとご家族の痛みや不安を受け止め、やわらげるために。

緩和ケアというと、「がんと診断された人が受けるもの」というイメージを持つ人が多いかもしれませんが、しかし緩和ケアは、対象とする病気は問いません。がんや心不全、腎不全などの病気で生命の危機に直面している人、認知症になり生活の質（QOL）の大幅な低下が予想される人、そしてそのご家族のために緩和ケアはあります。身体的な痛み、精神的な苦痛、生活面の不安などに耳を傾け、様々なつらさがやわらぐよう治療やケアをするのが緩和ケアの役割です。

中心的役割を担います。患者さんとご家族の不安や心配事をすべて受け止め、治療方法を選択するお手伝いをしたり、薬に関しては薬剤師、在宅医療に関しては社会福祉士というように、緩和ケアの専門スタッフに迅速かつ適切につなぐことも重要な仕事です。

「緩和ケア認定看護師の専門性は、『話を聞くスペシャリスト』であることだと思っています」と語るのは、村上総合病院の玉木亜生子緩和ケア認定看護師。次ページからは、玉木看護師の緩和ケアに対する思いや、同病院の緩和ケアチームの活動について紹介します。

緩和ケア認定看護師の役割・領域

身体的な痛みの
予防やケア

精神的な
苦痛のケア

ご家族へのケア

生活面の
相談対応

専門職への
橋渡し

エンゼルケア



など

緩和ケア認定看護師になるには

3年以上の緩和ケア分野経験を含む5年以上の実務経験

日本看護協会が認める教育機関で6カ月以上の研修

約2カ月間の実習

認定審査

緩和ケア認定看護師

JA新潟厚生連では
研修中も給与が支給されます

実習にかかる交通費や宿泊費、
受験費用もJA新潟厚生連が全額負担します

緩和ケアは特別なことではなく、「看護の原点」だと思っています。



村上総合病院

緩和ケア認定看護師
主任看護師

タマキ アイコ
玉木 亜生子

2001年厚生連村上総合病院入職。消化器外科病棟、脳外科病棟、地域包括ケア病棟で勤務、2018年新潟県看護協会 緩和ケア認定看護師教育課程へ入学し、2019年に緩和ケア認定看護師の資格を取得

※撮影時のみマスクを外しています。

「緩和ケアの分野を深めようと思った理由を教えてください。」
新人の頃は消化器外科病棟勤務でした。がん患者さんも多く、最初は手術や治療をして退院する姿を見送ることができました。けれど病状が悪化して入院を繰り返す方もいて、徐々にそういう患者さんから足が遠のいていく自分に気がきました。そして「患者さんから『もう治らないのかな』など聞かれたらどうしよう...でも看護師としてこれじゃいけない」とジレンマを抱えるように。そうした患者さんやご家族としっかり向き合うには、相応の知識や技術を身につけることが必要で、今後の自分の大きな目標になっていくだろうと漠然と感じていました。

その後は脳外科病棟に移り、結婚・出産を経て地域包括ケア病棟へ。そこで再びがんなどの慢性疾患を抱える患者さんと接するよ

Interview

緩和ケア認定看護師の登録者数は
新潟県内で58名(2020年12月現在)。
その中の一人、玉木看護師に話を聞きました。

うになり、若い頃の目標が蘇ったんです。看護師の専門性について改めて考えた時、緩和ケアは、病気でいるいるなものを失った人がどう生活するかという医療や看護の基礎が詰まっていると思えました。それを学べば自分は何か変わるかもしれないと考え、緩和ケア認定看護師を目指す決意をしました。

「資格取得後、心境の変化はありましたか?」

以前はどこか自分の価値観が消えなくて、「自分だったらこの治療を選択するのにな」ということもありました。でも患者さんやご家族の価値観、人生観を大事にしようと思えるようになりました。患者さんの気持ちを受け止める存在でありたいと願う一方で、患者さんのすべては知り得ない、という謙虚さを持ち続けることも大切だと思っています。

様々な視点で考え、支える「緩和ケアチーム」

医師、看護師、薬剤師、作業療法士、社会福祉士（ソーシャルワーカー）、医療事務で構成される村上総合病院の緩和ケアチーム。各分野のスペシャリストが専門知識を持ち寄り、緩和ケアが必要な患者さんやご家族を支えています。月1回の集まりでは、症例検討や過去の事例の振り返り、倫理的な問題に対する解決方法の検討などを通じて、より良い緩和ケアのあり方を話し合います。

大切にしているのは、村上総合病院の理念でもある「生老病死すべての局面で支え、寄り添う」という考え方。そのために医学的適応（病気の診断や治療目標の確認）、患者さんの意向（事前の意思表示や代理決定についての確認）、周囲の状況（家族や経済的側面）など、様々な視点から話し合いを重ね、患者さんの生活の質（QOL）の維持・向上に全力を尽くしています。

今後は緩和ケアやACP（※）を根付かせる活動にも力を入れる方針です。高齢化の時代、人生の最終段階をどのように過ごしたいか、誰もが一度は考えてみる（※）ACP: Advance Care Planning（アドバンス・ケア・プランニング）。人生の最終段階におけるケアについて、患者さん・ご家族・医療従事者の話し合いを通じて、患者さんの価値観や治療・ケアの目標や選択を明確にするプロセスのこと。



【左から】薬剤師 尾形 麻衣、作業療法士 井上 美保子、社会福祉士 井上 一稀、病院長 林 達彦、緩和ケア認定看護師 主任看護師 玉木 亜生子、看護師 津野 純子、看護師 本間 美恵子
※撮影時のみマスクを外しています。

看護師による緩和ケア外来 やわらぎ

病気が進行してからではなく、もっと早い段階から質の高い治療やケアを提供したい。そんな思いから玉木看護師が中心となって立ち上げたのが「緩和ケア外来 やわらぎ」です。今困っている症状はないか、どんな気持ちか、今後どのようなケアを望むかなどを一緒に考え、支援します。

相談内容







- がんなどの病気と診断されて不安
- どの治療方法を選んだらいいか迷っている
- 治療しながら生活できるのか不安
- つらい気持ちを聞いてほしい
- 緩和ケアについて知りたい

※鎮痛剤の使用法や、医療者への痛みの伝え方もアドバイスします

- ・対象：村上総合病院に通院中・入院中の患者さんご家族
- ・日時：毎週火曜日10:00～15:00
- ・費用：1割負担の方は200円程度、3割負担の方は600円程度かかることがあります



村上総合病院の緩和ケアチーム

 <p>医師 痛みや苦痛を伴う様々な症状をやわらげます</p>	 <p>看護師 患者さんやご家族の話しに耳を傾け、治療方針の決定のお手伝いや様々なケアをします</p>	 <p>薬剤師 処方された薬に関する情報提供や飲み方の指導などをします</p>
 <p>作業療法士 患者さん自身の希望や目標をお聞きし、それに合わせたリハビリを提供します</p>	 <p>社会福祉士 (ソーシャルワーカー) 在宅医療を希望する患者さんご家族を支援します</p>	 <p>医療事務 医療費や緩和ケア診療加算などを管理します</p>



患者さんの本音に寄り添ったリハビリを提供

日常生活における機能低下に対して、リハビリを通じてQOLの維持・向上を目指すお手伝いをしています。患者さんの中には不安を抱え、「もう何もできない」と落ち込んでしまう人もいます。そういう時はあえてリハビリはせず、話を傾けたり、ただ一緒に過ごすこともあります。

大切なのは、患者さん本人の本音を知ること。「料理をしたい」という希望に対して、「体力的に難しいからレトルトでいいのでは」ではなく、その人にとっては「家族のために作りたい」というのが大事なことです。やりたいことの裏側にある思いを知り、実現する手助けをしています。患者さんやご家族にとって、いるだけでほっとする、話しやすいと思ってもらえる存在でありたいですね。

※撮影時のみマスクを外しています。

村上総合病院 作業療法士 井上 美保子

薬の使い方マニュアルを整備し患者さんに貢献したい

緩和ケアに携わるようになって約1年。まだ経験が少ないので、緩和ケアチームの皆さんに教わりながら知識を深めている段階です。緩和ケアの患者さんに対しては、薬の使い方や副作用に関する説明のほか、医療用麻薬の使用の方も重要なポイントになります。痛みが突然出たとき、我慢せずに患者さん自身でお薬を使っていたらどうしよう、正しい使い方のマニュアルを今後整備していくつもりです。また、緩和ケアに関する勉強会にも積極的に参加したいと思っています。緩和ケアは様々な職種と関わる機会が多いので、チームの中で信頼され、気軽に相談しやすい薬剤師を目指したいです。



村上総合病院 薬剤師 尾形 麻衣



ご本人の価値観を知った上で治療やケアの計画を

緩和ケアにおける医師の役割は治療や医療情報の提示ですが、医学的な最善が患者さん本人にとっての最善とは限りません。できる限り長く生きることよりも、苦痛がないこと、家族とできるだけ一緒にいることが重要な場合もあります。そうした患者さんの価値観を知った上で治療やケアを計画していく。これがACP(アドバンスケア・プランニング)の考え方です。患者さんの人生観を知るために「もしバナゲーム」というトランプのようなカードを使うこともあります。ACPは「人生会議」とも言われますが、結論が必要な通常の会議とは異なり、ACPは答えを出す必要はなく、繰り返し話し合うことが重要です。人生の最終段階について多くの人に考えてもらうため、地域と連携しながら緩和ケアやACPの普及活動にも取り組んでいます。

村上総合病院 病院長 林達彦

インタビュー 私は、緩和ケアの仕事が大好きです！

治験NEWS

治験に薬剤師も関わってます

薬剤師が治験事務局をしています。治験に参加される患者さんの人権等を守り、実施・継続することに問題はないか、治験薬(くすりの候補)を薬学的に評価しています。

実施中	[長岡中央総合病院]	[糸魚川総合病院]
	● 潰瘍性大腸炎 ● 市中肺炎	● クロウン病 ● 癒着防止剤 ● 血友病

※該当する方や詳細を知りたい方は、主治医にお申し出ください。治験に参加するには細かい条件があります。ご希望いただいても、参加いただけない場合がございます。